
失恋花火

一香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

失恋花火

【Nコード】

N9834V

【作者名】

一香

【あらすじ】

花美はなみとゆう女の子の失恋話。

キーワードは『花』！？

(前書き)

この小説を手にとって(？)いいいただきありがとうございます!!
この作品が私^{うち}一番の初作品です!!
とゆうより、

あらずじ短くてすみません><

みんなにおもしろい!!

って思ってもらえたらHAPPYです!!

では、

すごい短い小説ですが、ご覧下さい!!m(´`´)m

私の恋は去年花火と一緒に消え散った。

私は去年の夏。

彼氏と花火大会の日にデートする約束をした。

「7時にあの公園の前で待っていてよ!!」

ぜってえ迎えに行くから^^」

私は「彼がデートに誘ってくれた!」

そう思っただけですごくテンションが上がって、そのためにお母さんに浴衣を買ってもらった。

約束の日、可愛い黒地紫やピンクの朝顔の模様のはいった浴衣をきて、

おめかしして、特別な日だからネイルもして彼を公園でまっただも30分たっても彼は現れなかった。

待ちきれなくなって、ケータイで彼に電話した。

「プルルル。プルルル。プルルル。・・・。」

彼はでてくれなかった。

待ち合わせ場所には人がなくなって寂しくなって、

「もうちよつとで8時だから花火が始る。」そう思って場所を移動した。

それでお腹が減っちゃってりんご飴を買おうと思って屋台に行ったら・・・。

彼が他の女の子と手をつなぎながら、りんご飴を買ってるのが見えて、

悲しくて、辛くて自分の持ってるカバンを落としちゃって目の前が暗くなって・・・。

でもその時に、

「ヒュードーン!!」

キレイな1つの美しい花火が上がった。
でもその花火は上まであがって開くと、すぐに輝きをなくして消えてしまった。

今の私のように。

楽しみに彼を待っていたのに・・・
これからもこの幸せが続くと思ってたのに・・・。

『花』がつくものはいづれ消えてしまう。

花火も花もそして私も・・・。

私の名前には『花』って漢字がはいってる。

恋は私自身がやっていること。

だから『花』がはいっているのと同じ。

わたしの名前は『花美』

花のように美しいor可愛い子になってほしいからと親がつけた。

その私の名前も花火のように消え、花びらの様に散った。

私は思ったんだ。

「りんご飴さえ買いに行かなければ、この真実は知らずにすんだ。
って・・・。」

りんごは赤いのに私はブルー。

アメは甘いのに私は苦い。

はやくこの痛みから・・・苦しみから、切なさから抜け出したいくて、
家まで走った。

ゲタを履いてたから何回も何回もこけて、

今思えばものすごい傷だったけど、

それより彼にふられたとゆう

大きな傷がココロにできたから、こけた痛さなんてなんとも思わなかった。

家に帰って自分の部屋で泣いてて、だんだん落ち着いてきて彼への怒りもおさまって、その時思ったのが、

「彼のことはすごく憎い。憎くて憎くてしょうがない。

でも、やっぱり恨む事ができないんだ。

彼を愛してるから。」

私の恋心はいつの間にか、恋から愛へ変化していた。

彼はなんとも思っていないけど、

でも私は大好きなんだ。

あれから1年たって今年の花火大会が来た。

私は彼のことを考えてるときもあるけど、

今は新しい恋を探してる。

いつか、

私が彼を愛し、彼が私を愛してくれるようなそんな恋の相手を……

それと、

彼の恋を応援してあたたかい目で遠くから彼を見守ることと。

(後書き)

ここまで読んでくれてありがとうございます！
うち
私一香の初作品の感想をできれば教えていただきたいです！！

これからもっとうまくなって、皆に感動してもらえる物を
恋愛系で1回作りたいと思っています！！
なのでダメだしとかどんどんください！！

良かった部分もほしいですけどww
ではx02

2作目がでたらまた読みにきてください！！
感想お待ちしております！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9834v/>

失恋花火

2011年10月9日14時21分発行